

会議結果報告書

令和5年12月28日

会議の名称	令和5年度第2回舞鶴市部活動地域移行あり方検討会	
種別	<input type="checkbox"/> 附属機関 <input checked="" type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和5年12月22日(金) 15時～17時10分	
開催場所	舞鶴市役所別館6階 大会議室	
出席者	舞鶴市部活動地域移行あり方検討会委員12名	
議題	(1) 国・府等の動向について (2) 実証事業の実施状況について (3) 実態調査の結果について (4) 広報について (5) 意見交換 (6) 今後の取組について	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	
	<input type="checkbox"/> 部分公開	[理由]
傍聴者数	2名	
審議結果 及 主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ● 舞鶴の子どもたちが、スポーツや文化活動ができる、やめなくても良い仕組みを作るのが一番。競技力を目指す子、楽しく活動したい子など、それぞれの志向に合わせて活動できるようにすべき ● 子どもたちのための改革であることを理解してもらうため、保護者に誤解を与えないために、さらに広報が必要。 ● 文化活動関係者も、実態調査をきっかけに前向きに考えてくれている。文化版ゆる部活のような、多様な体験ができる場ができると良い。 	
会議録の作成様式	<input type="checkbox"/> 詳細 <input checked="" type="checkbox"/> 要約	
備考		
担当課	舞鶴市 教育振興部 学校教育課 TEL (0773) 66 - 1072	

第2回舞鶴市部活動地域移行あり方検討会 議事録

日 時：令和5年12月22日（金）午後3時～午後5時10分

場 所：舞鶴市役所別館6階 大会議室

出席者：（敬称略）

役職	出席委員	団体の役職
会長	長積 仁	立命館大学 スポーツ健康科学部 学部長
副会長	福本 浩介	中学校校長会 会長
委員	秋原 栄人	舞鶴市教育委員会指導理事
委員	塩尻 徹	TOMA Iスポーツクラブ 代表
委員	白田 誠	舞鶴市スポーツ推進委員連絡協議会 副会長
委員	鈴木 元	舞鶴ちゃったスポーツクラブ 会長
委員	高橋 てる恵	公益財団法人舞鶴文化教育財団 理事
委員	田中 美香子	舞鶴文化協会 副会長
委員	内藤 行雄	一般財団法人舞鶴市スポーツ協会 会長
委員	増茂 祥司	舞鶴市PTA連絡協議会 副会長
委員	松林 周一郎	中学校体育連盟 会長
委員	森 隆	舞鶴市スポーツ少年団 本部長

【事務局】教育委員会4名、市民文化環境部6名

【傍聴者】一般傍聴2名

会議録：

1. 開会挨拶

2. 議事

- (1) 国・府等の動向について…事務局から説明
- (2) 実証事業の実施状況について…事務局から説明
- (3) 実態調査の結果について…事務局から説明
- (4) 広報について…事務局から説明
- (5) 意見交換

主な意見は以下のとおり

《地域移行全般》

- 競技力指向と楽しく活動すること、両方の選択肢があると良い。目的に応じて子どもたちが楽しめることが大事。
- 舞鶴の子どもたちが、スポーツや文化活動ができる、やめなくても良い仕組みを作るのが一番。それぞれの志向に合わせて活動していくことになるが、まずはそれが第一
- 最初の入り口として、色々なものを体験できるようになると良いと思う。その中で競技として目指すなどそれぞれ進んでいけば良いのではないか。その環境づくりできると良い。
- 市のまちづくりの大枠、ゴールのビジョンを示さないといけない。その上での部活動改革が必要。方向性の収斂をしないとイケない。
- 子どもたちのための改革であることを理解してもらうため、保護者に誤解を与えないために、広報が必要。
- ゆる部活は、体験した生徒からは好評なため、広報を考えればもっと参加者が増えると思われる。
- ゆる部活は、スポーツが苦手な子どもたちの居場所となりたい。
- 文化活動関係者も、実態調査をきっかけに前向きに考えてくれている。文化版ゆる部活のような、多様な体験ができる場ができると良い。

《実態調査》

- 実態調査の結果を見ると、学校にないことができれば良いという意見があり、現在の学校部活動にはない活動も含めて考えていく必要がある。
- 児童生徒からは休日は休みたいという意見も多く、学校現場でもそれを感じる
- 地域移行の際、競技力志向でない生徒が、休日に何ができるか、知らせていく必要がある。
- 部活動顧問を負担に感じている教員が多いことがわかった。
- 大事な資料だり、この結果を活かさないともったいない。結果で共通する意見などについては、答えを返すと良いと思う。

《人材確保》

- 協会や連盟は放っておいても人が集まっていたが、今後はそうはいかない。活動の土台を維持するためにどう考えていくか検討が必要。
- 新たに指導者を発掘したいが、なかなか受けてもらえない。
- 中学生の指導者となると、ある程度体力がある人が必要だが、そういう方は仕事をしているため難しい。
- 高等学校との合同練習は、双方で資源（環境等）と人（指導者）を共有できればWINWINになるのではないか。
- 各競技団体は協力的だが、将来的に継続できるか不安な面もある。

→実態調査の結果などを踏まえ、意見の集約を図りたい。また、財源や人といった資源の確保についても、意見をよせてもらうよう会長から委員へ依頼あり。

(6) 今後の取組について…事務局から説明

3. 開会挨拶